

# クリスチャンの働き方

## Christian Work

エペソ人への手紙6:5-9の学び  
A Study through Ephesians 6:5-9



こちらの冊子は2022年11月にMUSTARD SEED クリスマン教会-仙台で語られた説教の原稿です。これらの説教はエペソ人への手紙の全体を通してのシリーズの一部です。

This booklet is a series of sermon manuscripts that were preached during the month of November 2022 at Mustard Seed Christian Church in Sendai. This was part of a longer series through the Letter to the Ephesians.

第1章: 従業員

Chapter 1: Employees

## 始め

良い従業員、働き者とは、皆さん、なんだと思いますか？ あなたは自分を指して、「私は本当に働き者だ」と言えるでしょうか？ このメッセージの後、私たちは聖書が言う「良い働き人」になるように努力し、同僚や上司に祝福と福音の証しをすることができればと思います。

さて、パウロはエペソのクリスチャンたちに向けて手紙を書いています。このクリスチャンの多くは、かつて異邦人、つまり非ユダヤ人で、罪のために霊的に死んでおり、キリストなしであつたので希望も平安もありませんでした。しかし、神の憐れみと恵みによって、彼らのアイデンティティは、イエスへの信仰によって、神の敵から神の子へと変えられたのです。

そして、彼らの新しいアイデンティティには、新しい生き方が伴います。パウロはエペソ人への手紙の4章22節で、次のように語っています。「<sup>22</sup> その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、<sup>23</sup> また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、<sup>24</sup> 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。」

彼は5章1節で続けてこう言っている。「ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。<sup>2</sup> また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。」

そしてもう一つ、5章8-10節で、彼はこう言います。「<sup>8</sup> あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあつて光となりました。光の子どもとして歩みなさい。<sup>9</sup> あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。<sup>10</sup> 何が主に喜ばれることなのかを吟味しなさい。」

そこから、パウロはエペソの人々に、夫として、妻として、親として、子どもとして、家庭の中で、これがどのように現実に見えてくるかを語ってきました。

そして、今日の箇所は、英語で"bondservants"という言葉で始まっています。他の訳では、日本語のように「奴隷」と訳されている場合もあります。

この言葉を聞いて、どのようなイメージが湧くかわかりませんが、この文章は1世紀に使徒パウロがエペソの教会に向けて書いたものであることを忘れてはいけません。その文脈での bondservant や奴隷の使い方は、おそらく皆さんが思っているのとは違っているはずです。そこで、この箇所の続きを読む前に、まずいくつかのことを明らかにしておきましょう。

この時代の奴隷は、家庭の一員であることが一般的でした。家族の一員のようなものです。ですから、パウロが家庭から奴隷に移行するのは自然なことかもしれません。

また、ここでの奴隷は、自分の意思で奴隷になった人と、自分の意思関係なく奴隷にされた人、二つの意味がありますが、どちらも含んでいる可能性があります。自分から奴隷になる人は、飢えをしのぐため、あるいは借金を返すためだったでしょう。見捨てられたり、すでに奴隷であった家に生まれた場合は、自分の意思関係なく奴隷になった人です。

## Introduction

What makes a really good employee or worker? Would you point to yourself and say “I am a really good worker”? Hopefully, after this message, we would all strive to be what the Bible says a good worker is and thus, be a blessing and gospel witness to our coworkers and our bosses.

Now just as a quick review and reminder, Paul is writing to the Christians in Ephesus. Many of these Christians were once Gentiles, that is, non Jewish, who were spiritually dead in their sin and had no hope and peace because they did not have Christ. But by the mercy and grace of God, their identities have been changed from enemy of God, to children of God, by their faith in Jesus.

And with their new identity, comes a new way of life. Paul tells the Ephesians in chapter 4:22, to “put off your old self, which belongs to your former manner of life and is corrupt through deceitful desires, 23 and to be renewed in the spirit of your minds, 24 and to put on the new self, created after the likeness of God in true righteousness and holiness.”

He goes on in chapter 5:1 and says “Therefore be imitators of God, as beloved children. 2 And walk in love, as Christ loved us and gave himself up for us, a fragrant offering and sacrifice to God.”

And one more, in 5:8-10, he tells them, “8 for at one time you were darkness, but now you are light in the Lord. Walk as children of light 9 (for the fruit of light is found in all that is good and right and true) 10 and try to discern what is pleasing to the Lord.”

From there, Paul has been telling the Ephesians how that looks like practically, in the family, as husbands, as wives, as parents, and children.

And now, we come to our passage today that begins with the word, “bondservants.” In other translations, this may be translated “slaves” like in the Japanese.

Now I’m not sure what image comes to mind when hearing that word, but we have to remember, that this was written by the apostle Paul in the 1st century to the church in Ephesus. The use of bondservant or slavery in that context is probably different than what you might think. So let’s clarify some things first before we go through the rest of the passage.

It was common for slaves during this time to be a part of the household. Like another part of the family. This might be why it would be natural for Paul to transition from the family to slaves.

Also, slaves here could have been become slaves voluntarily or involuntarily. People who would become slaves voluntarily would do so to avoid starvation or to pay off a debt that they owe. If someone was abandoned or they were born into a family that were already slaves, this would make them a slave, involuntarily.

また、一度奴隷になったからといって、一生奴隷であるわけではありません。この時代、ローマ帝国の支配下で、これらの奴隷は実際に自由を買う機会も与えられていたのです。そのため、パウロは第1コリント7:21で、「<sup>21</sup> **あなたが奴隷の状態で召されたのなら、そのことを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、その機会を用いたらよいでしょう。**」

つまり、パウロの時代の奴隷制度は、現代で考えられるような奴隷制度とは大きく異なっていたのです。とはいえ、奴隷を現代のサラリーマンや従業員と同じにすることもできない。パウロの時代と比べれば、現代の人々ははるかに良い環境に置かれている。しかし、現代の働く人にも適用できる基本的な原則がたくさんあります。

そこで今日は、良い従業員・働き手であるとはどういうことかを学びます。もっといろいろなことが言えると思いますが、今日は、どうすれば良い従業員になれるか、5つのことを簡単に説明したいと思います。

一つ目は、**良い働き手は忠実に働く**ということです。

これは5節の最初の部分から得られます。「恐れおののいて。。。地上の主人に従いなさい。」

パウロは、奴隷たちに、地上での主人に従うように呼びかけています。そして、恐れおののきながら従いなさいといっています。これは主人に対して尊敬を示すためです。たとえひどい主人であっても、パウロは忠実でいなさいと励ましています。主人の言うことを聞きなさい、と。

第二に、パウロはこの地上の主人たちに誠実（せいじつ）に従いなさいといっています。つまり、パウロは奴隷に誠実に働くように呼びかけているのです。ですから、**良い働き手は正直に働きます**。正直にです。

良い働き手は嘘をつきません。忠実な奴隷は、何かをしなさいと言われても、心の中で文句を言いません。嫌々ながら働くではありません。純粋に自分の仕事を受け入れて、それを行うのです。

教会開拓の仕事においても、やりたくないこと、やるとしてもいかなかったことをしなければいけない時があります。それは、入国管理局に書類を提出しに行くことであったり、航空券を買うお手伝いであったり、掃除機をかけることであったりします。あなたはどうですか？ あなたの仕事の中で、期待していなかったことが起きた時、不真面目（ふまじめ）な心になってしまう部分はありませんか？

今週、この箇所は私の心にとても響きました。なぜなら、私はこれに関しては、いい働き手であると言えないとわかっているからです。

So slavery during Paul's time was much different than the slavery we might think of in modern times. With that being said, we also can't equate bondservants to salarymen or workers of today. People today are in much better conditions than they were in Paul's day. However, there are many underlying principles that we can draw, that can still be applied today, to the modern worker.

So today, we will learn about what it means to be a good worker. There can be more that can be said, but today, I want to go over just 5 brief things of how we can be good workers.

### **The first is a good worker works faithfully.**

I get this from the first part of verse 5. "Bondservants, obey your earthly master with fear and trembling"

Paul is calling bondservants to obey their earthly masters. And to do this with fear and trembling. Out of respect for them. Even if they are terrible masters, Paul is urging them to be faithful. To do what they say.

The second thing Paul says is to faithfully obey these earthly masters with a sincere heart. So Paul is calling bondservants to work honestly. So **a good worker works honestly**. Truthfully.

A good worker doesn't lie. The faithful bondservant doesn't complain in their heart when they are told to do something. They don't work reluctantly. They genuinely accept their task and do it.

Even in church planting work, we sometimes end up doing things we don't want to do or doing things we don't expect. That could be going to the immigration office to turn in paperwork or helping someone buy plane tickets or vacuuming the floor. How about you? Is there any part of your job that you didn't expect and thus, resulted in an insincere heart?

For me this week, this was very convicting because I know I have not been the best worker in this area.



**良い働き手は、忠実に、正直に、そして次に心をこめて働きます。**

6節で、パウロはこう言っています。「**6** ご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、」

つまり、良い働き手は、主人や上司がいるときだけ働くのではない、ということです。これがパウロの言う「うわべだけの仕方」です。また、上司や周りの人から褒められるためだけに一生懸命働くではありません。誰も見ていないところでも、一生懸命に働くのです。心をこめて働くのです。それはつまり、信頼できる人ということです。主人は、自分がいなくても、この人に頼めば仕事をしてくれるという安心感があります。

**良い働き手の第四の特徴は、喜びをもって仕事をすることです。**これは、6節後半から7節にかけての部分から得られます。「**心から神のみこころを行い、<sup>7</sup> 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。**」

その前に、ひとつだけはっきりさせておきたいことがあります。多くの人は、ある仕事が他の仕事より優れていると考えるかもしれませんが。例えば、医者であることは清掃員であることよりも優れているとか。あるいは、ある仕事は他の仕事よりも聖なるものであるとか。教会の仕事をするのは、そうでない仕事よりも素晴らしいとか。パウロがここで言っているのは、たとえあなたが奴隷であっても、神の御心を行うことができるのだ、ということです。つまり、どんな仕事をしていても、神様の御心を行うことができるのです！という意味です。どんな仕事をしているかによって、あなたが神の御心を行なっているかどうかが決まるわけではありません。それどころか、あなたが何をしても、どこにいても、神様の御心を行うことができるのです。

つまり、良い働き手は、良い意志を持って奉仕をするのです。これは、良い姿勢で仕事をするということでもあります。喜んで仕事をする。これは日本語訳の方がより明確になっています。また、慈善（じぜん）の心を持って行うという意味もあります。つまり、彼らは親切で慈善的な行為をするために働くということです。

ここで、僕自身の足りなさを感じさせる質問を皆さんにもします。あなたは、必要最低限のことをするために仕事をしているのでしょうか？ それとも、期待されている以上のことができるように働いていますか？ もし、あなたが自分のやるべき仕事を終えて、他の人の仕事を手伝えることができるとしたらどうでしょう？ それは、喜びと善意を持って働くことに入ります・

ですから、良い働き手は、誠実に、正直に、心をこめて、そして喜んで働きます。

**最後に、良い働き手は最終的にキリストのために働きます。**

いい働き手はイエスが究極の主人であることを理解しています。そして、私たちはそのキリストのしもべです。パウロは手紙の中で、イエス様がすべての支配と権力と権威と支配を持っていると言いました。イエス様は王なのです。

**So a good worker works faithfully, honestly, and next, wholeheartedly.**

In verse 6, Paul says “not by the way of eye-service, as people-pleasers”

This means that a good worker doesn't just work when the master or boss is around. This is what Paul means by eye-service. They also don't work hard just to get praise from their boss or those around them. Even when no one is looking, they are working hard. They are working wholeheartedly. This means that the worker is trustworthy and reliable. The master can depend on their bondservant to get work done, even if they are not around.

**The fourth characteristic of a good work is that they work joyfully.** I get this from the latter half of verse 6 into 7. “Doing the will of God from the heart, 7 rendering service with a good will as to the Lord and not to man”

Before I move on, I want to clarify one thing. Many people might think that one job is better than another. Like being a doctor is better than being a janitor. Or one job is even more holier than another. That doing church work is greater than non church work. What Paul is saying here is that even if you're a bondservant, you can be doing the will of God! The implication is that you can be doing the will of God no matter what you do! What job you have doesn't determine whether you are doing God's will or not. On the contrary, you can be doing God's will no matter what you're doing, no matter where you are.

So moving on, a good worker renders their service with a good will. This also means that they do their work with a good attitude. They do their work joyfully. This is more clear in the Japanese translation. It also means they do it with benevolence. That means they work to do kind and charitable acts.

Here is a convicting question for me. Do you do work just to get the bare minimum done? Or do you work so that you can do way more than is expected of you? What if you finished your own work that needed to be done, so that you can help someone else complete their work? This would be working joyfully and with a good will.

So a good worker works faithfully, honestly, wholeheartedly, and joyfully.

**Lastly, a good worker ultimately works for Christ.** They understand that Jesus is the ultimate master. And we are his servants. Remember, Paul in his letter mentioned earlier that Jesus has all rule and power and authority and dominion. He is the King!

そして、この箇所で、パウロは、イエスのために働いているように働きなさいと繰り返しいます。

5節では、「キリストに従うように、」

6節では、「キリストのしもべとして」

そして7節は、「主に仕えるように、」

これが私たちの仕事をどう影響すべきかと聞けば、それはイエス様がすべてを見ておられるということからです。私たちがする小さなことも、イエス様は見ておられます。私たちがする大きなことも見ておられます。目的がないものなんてありません。すべてが重要なのです。そして、一つ一つに応じて私たちに報酬を与えてくださるのです。

私たちのアイデンティティの観点から見たら、これは私たちは王のしもべであるということの意味しています。私たちはキリストの従業員であり、キリストのために働く者なのです。この事実は、私たちにとてつもない尊厳と価値を与えてくれるはずですが、私たちは、この地上での仕事によって定義され、評価されるものではありません。

この世では、仕事で自分の価値を決めるのはとてもやりやすいことです。新しい人に出会って自己紹介をするとき、最初に大抵出てくる質問のひとつが「どんなお仕事をされていますか?」ですよね。これは、私たちがしばしば、人のアイデンティティを、その人が持っている職業に関連付けるからでしょう。それは、私たちが自分のアイデンティティを職業と結びつけて考えるからでしょう。「私は医者です」と胸を張って言える人もいれば、「私はただのウェイトレスです」と落胆する人もいます。

イエスがいれば、主人であれ、奴隷であれ、自由人であれ、誰もが尊厳ある働き手なのです。そして、このことが、私たちが喜びをもって、心をこめて、正直に、忠実に働くための根拠となるはずですが、なぜなら、そうするとき、私たちは神に倣うことになり、実際にイエスのようになるからです。

ピリピ人への手紙2章5-11節で、パウロはこう言います。

「<sup>5</sup> キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。<sup>6</sup> キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、<sup>7</sup> ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、<sup>8</sup> 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。<sup>9</sup> それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。<sup>10</sup> それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、<sup>11</sup> すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」

だから、イエスの模範を見てください。自分の仕事の内容に落胆しないでください。あなたの職場でイエスのようになることを目指しましょう。そして、そのことが、神があなたに望んでおられるような働き手になるための動機付けとなるようにしましょう。すべてのクリスチャンが職場でイエス様のようになることを目指したらどうなるでしょう。クリスチャンこそが、雇うにも一緒に働くにも最適な人材となるはずですが、そして、このことは、この地上でイエス様の支配を広め、イエス様を知らない人々への祝福となるはずですが。

And in our passage, Paul repeatedly mentions to work as we are working for Jesus.

Verse 5, “as you would Christ.”

Verse 6, “as bondservants of Christ.”

Verse 7, “as to the Lord.”

What this means in terms of our work is that Jesus sees all of it. He sees all the little things that we do. He sees the big things that we do. Nothing is purposeless. All is important. And He will reward us accordingly.

What this means in terms of our identity is that we are servants of the King. We are workers of Christ and for Christ. This fact should give us tremendous dignity and value. We are not defined and valued by the work we do here on earth.

In this world, it is easy to define our value based on our work. When we meet someone new and introduce ourselves, one of the first questions that comes up is “What do you do?” This is probably because we often associate one’s identity to the occupation that they have. And one could feel proud and say “I’m a doctor” or they can feel discouraged and say, “I’m just a waitress.”

With Jesus, everyone is a dignified worker, whether a master, slave, or free. And this should be the grounds that helps us work joyfully, wholeheartedly, honestly, and faithfully. Because when we do this, we are imitating God and we are actually becoming like Jesus.

In Philippians 2:5-11, Paul says,

“5 Have this mind among yourselves, which is yours in Christ Jesus, 6 who, though he was in the form of God, did not count equality with God a thing to be grasped, 7 but emptied himself, by taking the form of a servant, being born in the likeness of men. 8 And being found in human form, he humbled himself by becoming obedient to the point of death, even death on a cross. 9 Therefore God has highly exalted him and bestowed on him the name that is above every name, 10 so that at the name of Jesus every knee should bow, in heaven and on earth and under the earth, 11 and every tongue confess that Jesus Christ is Lord, to the glory of God the Father”

So look to Jesus’ example. Don’t be discouraged by what you do for your work. Aim to be like Jesus in your workplace. And let that give you motivation to be the kind of worker God wants you to be. Imagine if all Christians aimed to be like Jesus in the workplace. This should make Christians the best kind of people to hire and to work with. And this in turn should spread Jesus’ rule here on this earth and be a blessing to those that don’t know Him.

先ほどのエペソ人への手紙の中の「愛」の定義を思い出してください。愛とは、他の人々のために自分自身を神に捧げることです。仕事も同じようなものです。仕事は主人であるイエスのために、職場の利益のために働くことであるべきです。

最後に、「アメイジング・グレイス」という歌の作者であるジョン・ニュートンのこの言葉を引用して締めたいと思います。

「二人の天使が同じ瞬間に神から命令を受け、一人は地球の最も偉大な帝国を支配し、もう一人は地球の最も貧しい村の通りを掃除するとしたら、支配者と清掃員のどちらの役目につくかは、それぞれにとって全く無関心なことであろう。天使たちの喜びは神の意思に従うことであり、同じ喜びを持ってボロボロのラザロをアブラハムの懐に抱き、火の戦車となってエリヤを天に運んだりするのである。」

ニュートンが言っているのは、クリスチャンの心とは、不平や不満を言う心ではないということです。いや、クリスチャンの心とは、主イエスから頼まれたことは何でも喜んでやるという喜びに満ちた心なのです。そして、どんな仕事でもイエスが私たちを用いてくださるということは、私たちに尊厳と励まし、そして大きな喜びをもたらすはずですよ。

ですから、あなたが教師であろうと宣教師であろうと、軍人であろうと会社の事務員であろうと、母親であろうと、皆同じ主人、主イエス・キリストを持っているのです。そして、あなたが主のものであるなら、どんな職業であっても、主に仕えることができます。ですから、神の息子として、娘として、しもべとして、喜びを持って神の栄光のために働きましょう。

Remember our definition of love earlier in Ephesians? Love is giving ourselves to God for the benefit of others. Work is similar. Work should be working for our Master Jesus, for the benefit of the workplace.

I want to lastly close with this quote from John Newton, the author of the song, Amazing Grace.

“If two angels were to receive at the same moment a commission from God, one to go down and rule earth’s grandest empire, the other to go and sweep the streets of its meanest village, it would be a matter of entire indifference to each which service fell to his lot, the post of ruler or the post of scavenger; for the joy of the angels lies only in obedience to God’s will, and with equal joy they would lift a Lazarus in his rags to Abraham’s bosom, or be a chariot of fire to carry an Elijah home.”

What Newton is saying is that a Christian heart is not one of grumbling or complaining. No, a Christian heart is one of joy, being willing to do whatever our Lord Jesus asks of us. And the fact that Jesus uses us no matter the task should bring us dignity, encouragement, and great joy.

So whether you are a teacher or missionary, whether you’re in the military or an office worker at a company or whether you’re a mother, you all have the same master, the Lord Jesus Christ. And if you are His, then you are able to serve Him no matter the occupation. So work for God’s glory with joy as His sons, as His daughters, as His servants.

第2章: 上司

Chapter 2: Bosses

## 始め

古代エペソの教会に宛てたこの手紙を通しての学びを、ほぼ終えることができました。この手紙は、使徒パウロが聖霊なる神の靈感のもとに書いた手紙です。私たちは、これが聖書であり、それゆえに私たちに對する權威を持ち、今日においても私たちに助けを与えてくれるものであると信じています。

先週、レオさんは5-8節で奴隷について教えてくださいました。全く同じではありませんが、従業員がどのように働き、上司と接するべきかの原則を得ることができるといっていました。今日は、9節の主人たちへの教えにフォーカスして行きたいと思います。これは1世紀のギリシャ・ローマ時代に書かれたもので、主人と奴隷について書かれていますが、上司が職場で自分の權威の下にある人々とどのように関わるべきかという原則を得ることができると思います。

すべての文化と同じように、日本にも職場での問題が多くあります。毎週、ニュースを見ると、不道德な行為で謝罪する社長がいるです。セクハラ、パワハラ、過労死、ブラック会社、これらは日本の職場の環境における大きな問題です。これらの問題はすべて、その企業の指導者に原因があります。

では、職場でのリーダーシップについて、聖書はどのように教えているのでしょうか。クリスチャンの職場はどのようなものであるべきなのでしょう。この節を見て、ここに何かがあるのかを見て行きましょう。もう一回、9節を読みます。「主人たちよ。あなたがたも奴隷に對して同じようにしなさい。脅すことはやめなさい。あなたがたは、彼らの主、またあなたがたの主が天におられ、主は人を差別なさらないことを知っているのです。」

**パウロの「脅すことはやめなさい」という命令から始めましょう。**

まず気づいてほしいのは、教会の集まりには主人も奴隷も参加していたということです。彼らは同じ教会のメンバーだったのです。時々、上司と同じ教会に行くのは気が引けると思っている人がいると思います。実は、僕はこのこと、この気持ちは全然理解できないです。なぜなら、私の上司はいつも私が働いていた教会の牧師だったからです。

パウロは、奴隷と主人が同じ教会にいることが悪いことだとは思っていなかったし、気まずいとも思っていなかった。また、パウロは公で奴隷の前で主人たちを正すことが悪いことだとは思っていなかったようです。彼は、「脅すことはやめなさい」と言ったのです。もし、彼が「やめろ」と言わなければならなかったとしたら、それは彼らがそのことをやっていたというわけです。主人たちがやっている行為に對して、パウロは教会全体の前で、「それをやめなさい」と言ったのです。

教会は家族です。私たちの家族ではなく、神様の家族です。この家族のルールは神様が作ったものです。私たちの家族の多くでは、あることについて話してはいけないことがあるかもしれませんが、神様の家族は違います。教会では、誰かが權威ある立場にあるからといって、罪を指摘することを避けたりしません。そうではなく、すべての人の罪を正します。



## **Introduction**

We are almost finished with our study through this letter to the church in ancient Ephesus. This is a letter written by the Apostle Paul under the inspiration of God the Holy Spirit. We believe this is Scripture and therefore has authority over us and gives us help even today.

Last week, Reo taught about slaves in verses 5-8. He said that although it is not exactly the same, we can get principles for how employees should work and interact with their bosses. Today we are focusing on verse 9 which is instruction to the masters. So, again although this is written in the first century in Greco-Roman culture with teaching about masters and slaves we can still get principles for how bosses should relate to those who are under their authority at work.

Just like every culture, Japan has a lot of problems in the workplace. It seems that every week you can read the news and see another CEO who is apologizing for immoral actions. Sexual harassment, power harassment, Karoshi (or death from overwork), Black companies, these are some of the major problems in the work environments in Japan. All of these problems are caused by the leadership of those companies.

So, what is the Bible's teaching on leadership in the workplace? What is the Christian workplace supposed to be like? Let's look at this verse and see what is here. Let's read verse 9 one more time. "Masters, do the same to them, and stop your threatening, knowing that he who is both their Master and yours is in heaven, and that there is no partiality with him."

### **Let's begin by looking at Paul's command "stop your threatening."**

First I want to point out that the masters and the slaves were both present in the church gathering. They were members of the same church. Sometimes we think it is awkward to go to church at the same place as our boss. To be honest, I don't understand this concern because I have always been part of the same church as my boss because my boss has always been the pastor of the church that I worked at.

Paul did not think it was wrong or awkward to have the slaves and their masters in the same church. Paul apparently also did not think it was a bad idea to correct the masters publicly in front of their slaves. He said "stop your threatening." If he had to tell them to stop that means they were doing it. This was a behavior the masters were doing and Paul told them, in front of the whole church, "stop that."

The church is a family. It is not our family, it is God's family. God makes the rules for his family. In a lot of our families there may be certain things that you just don't talk about. Not in God's family. In the church we don't avoid confronting sin because someone is in a position of authority. No, we correct everyone's sin.

イエス様には差別がないので、教会にも差別がないはずです。これは、誰もが悔い改めることを意味します。権威ある立場にあるからといって、正されることがないわけじゃないです。それは、私たちが非難されないようにするために、より大きな責任を負っているということです。つまり、私たちのモラル、動機、そして部下に対する接し方について、より高い基準があるということです。

パウロは主人たちに、脅すことをやめるように言いました。なぜかというと、脅すことは、クリスチャンとしてコンプライアンス、従順を得るための方法ではないからです。「オレの言うとおりにしないと後悔するんだ」と言うのは、罪深いいじめです。マタイ20章で、イエスはクリスチャンのリーダーシップのあり方を教えました。20:25-28にこう書いてあります。

そこで、イエスは彼ら呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているとおおり、異邦人の支配者たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」

ペテロ第一の5章では、ペテロは教会の長老たちにも同じの教えをしている。「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。 割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。」と。

聖書的な権威の使い方は、自分の下の人に仕えることです。上司やリーダーの役割は、神の栄光のためであるべき会社の使命のために、従業員が成長し、発展し、成功できるように仕えることです。ですから、脅したり、いじめたりすることは、決して許されることではありません。むしろ、彼らが従うことができるような模範を示すようにと聖書は言われているのです。

あなたが従業員に求めたい変化は何ですか？ もし、あなたの仕事のやり方を見ていたら、あなたが望む働き方の良い見本になりますか？

エペソ4:12でパウロは、教会の指導者は「聖徒たちを整えて、奉仕の働きをさせる」ことだと言っています。社員が会社の使命を達成するために成功するように、社員を整えるのは、教会の指導者の仕事であり、上司の仕事でもあるのです。

次は「奴隷に対して同じようにしなさい」というフレーズをみて行きたいと思います。

みなさん、これ、気づいたことがありますか？ すごくと思わない？ 奴隷と主人の関係で、その文脈、その文化でパウロは主人に対して、奴隷が自分に対して期待するのと全く同じようにふるまうようにと語っています。主人と奴隷は社会的に平等ではありませんでした。奴隷は主人の所有物でした。しかし、パウロとキリスト教の教えはそれに反して、主人は自分がされたいのと同じように奴隷を扱うべきだと教えているのです。

There is no partiality with Jesus and so there should not be any partiality in the church. This means everyone repents. Being in a position of authority does not mean we are not allowed to be corrected. It means we have a greater responsibility to be above reproach. It means there is a higher standard for our morals and for our motivations and for the way we treat those under us.

Paul tells the masters to stop their threatening because intimidation is not a Christian way of getting compliance. To tell someone “you will regret not doing what I say” is sinful bullying. In Matthew 20 Jesus taught the Christian way of leadership. In 20:25-28 it says:

But Jesus called them to him and said, “You know that the rulers of the Gentiles lord it over them, and their great ones exercise authority over them. It shall not be so among you. But whoever would be great among you must be your servant, and whoever would be first among you must be your slave, even as the Son of Man came not to be served but to serve, and to give his life as a ransom for many.”

In 1 Peter 5 Peter also gave similar instructions to elders of churches. This can also be applied to authority in the workplace I think: “shepherd the flock of God that is among you, exercising oversight, not under compulsion, but willingly, as God would have you; not for shameful gain, but eagerly; not domineering over those in your charge, but being examples to the flock.”

The biblical way of using authority is to serve those you have authority over. The role of bosses and leaders is to serve their employees so that they can grow and develop and succeed for the good of the mission of the company which needs to be for the glory of God. So threatening and bullying is not an option. Rather, we are told to set them an example that they can follow.

What is the change you want to see in your employees? If they were to watch you work would they see a good example of how you want them to work?

In Ephesians 4:12 Paul says the leaders of the church are “to equip the saints for the work of ministry.” It is the job of church leaders and of bosses to equip their employees so that they can succeed in carrying out the mission of the company.

**The next phrase I want to look at is “do the same to them.”**

Have you ever noticed this? This is amazing. In the context of slaves and masters Paul tells Masters to behave toward their slaves the exact same way that they expect them to behave toward themselves. Masters and slaves were not equal in society. A slave was owned by the master as a piece of property. But, Paul, and the teaching of Christianity contradicted that and taught that Masters should treat them the same way they want to be treated.

つまり、「隣人を自分と同じように愛しなさい」というイエスの教えは、主人と奴隷の関係にも適用されるのです。自分自身のように愛してはいけない人などいないわけです。

ですから、5-8節を見て、先週レオが言った「奴隷が主人のためにどのように働くか」を、主人が奴隷をどのように扱うべきかに当てはめることができるのです。もう一度5-8節を見て、主人たちのために言い直しましょう。

上司の皆さん、従業員がキリストその方であるかのように、恐れおののいて真心から指導してください。ご機嫌取りのようなことをしてはいけません。みんなに好かれるように、えこひいきしたり、指導したりしないでください。しかし、キリストのしもべとして自分の仕事をしましょう。心から神様の御心を行うことです。これは、あなたの仕事のあらゆる部分が神の御心に委ねるものでなければならないということでもあります。あなたの仕事のやり方は、神の御心に従うべきです。あなたの会社のミッションとビジョンは何ですか？それは、神がこの地上で起こそうとしておられることに従ったものですか？あなたの会社では、どのような業務を行っていますか？それは神の基準に従って倫理的ですか？あなたは他者との取引において誠実ですか？イエスは人生の大半を大工屋さんとして働きました。イエスはこの世界で働くことがどういふものかを知っています。彼は、罪を犯すことなく仕事をしていました。イエス様はあなたのために、よい良心で働くことができるでしょうか？

上司の皆さん、従業員に対して善意を持って仕える必要があります。彼らのために良いことをしたいと思わなければなりません。人間ではなく、主イエス様を導くようにしなければなりません。自分がしたことが主から返ってくる、その報いを得るということを分かって、すべての仕事をしなければなりません。主イエスにとっては、あなたの仕事のすべてが重要です。あなたが従業員にする奉仕の一つひとつが、イエスに見られているのです。イエス、あなたがするすべてのことに報いてくださいます。

**最後に9節の後半をみましょう。こういうリーダーシップはどうやってできるでしょうか？**

このような互いの関わり方は、福音の力によってのみ可能です、できるんです。パウロが4章から6章にかけて教えてきたことは、すべて1章から3章にかけて教えた真理に基づいています。教会は、神の家族です。私たちは皆、イエス様を信じる信仰によって、恵みによって等しく救われています。ここには、他の誰よりも優れている人はいません。他の教会員との関係がどうであれ、家族であれ、友人であれ、隣人であれ、同僚であれ、私たちは神の家族であり、それは職場でも家庭でも教会でも同じです。

エペソ2:4-10は、私たちの救いは、私たちに対する神様の一方的な愛のゆえに、完全に神様の恵みによるものであることを教えています。私たちはその一部を獲得したわけではありません。私たちの救いは、ビジネス世界でできた素晴らしい仕事に基づいているわけではありません。社会的な地位に基づくものでもありません。神のみわざだけに基づいています。

So, we can look at verses 5-8 and apply everything Reo said last week about how slaves work for their masters to how masters should treat their slaves. Let's look again at verses 5-8 and restate them for the masters.

Bosses, lead your employees with fear and trembling with a sincere heart, as you would if they were Christ himself. Don't be a people-pleaser. Don't play favorites or lead in ways to get everyone to like you. But carry out your work as a bondservant of Christ. Do the will of God from the heart. This also means that every part of your work should be submitted to the will of God. The way you do your work should be submitted to the will of God. What is the mission and vision of your company? Is it in submission to what God wants to happen on the earth? What are the practices of your company? Are they ethical according to God's standards? Are you honest in your dealings with others? Jesus worked as a carpenter for the majority of his life. He knows what it is like to work in this world. He did his work without sin. Could Jesus work for you with a clear conscience?

Bosses, you need to render your service to your employees with a good will toward them. You need to want good for them. Do this as if you were leading the Lord and not humans. You need to do all your work knowing that whatever you do you will receive back from the Lord. All your work matters to him. Every bit of service you give to your employees is seen by Jesus. He will reward you for everything you do.

**Now to finish let's look at the end of verse 9. How is this kind of leadership possible?**

This way of relating to one another is possible by the power of the gospel. Everything Paul has taught in chapters 4-6 is based on the truth that he taught in chapters 1-3. The church is the family of God. We are all equally saved by grace through faith in Jesus. There is not anyone who is better than any other person here. No matter what your relationship is to other church members is—whether you are family or friends or neighbors or coworkers— we are the family of God and that is true whether you are at work or at home or at church.

Ephesians 2:4-10 tells us that our salvation is completely by God's grace because of his unilateral love toward us. We have not earned any part of it. Our salvation is not based on our accomplishments in the business world. It is not based on our social status. It is based on God's work.

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられた慈愛によって、この限りなく豊かな恵みを、来たるべき世々に示すためでした。この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

2:18-22では、この救いのゆえに、私たちは皆、神の家族の一員であることが語られています。私たちは神の家族の一員なのです。このこともまた、完全に神様によって成し遂げられたことです。イエス様が十字架上で死なれたことによって獲得され、私たちは今も神様の御霊の力によって、神様のための完全な神殿に建てられているところなのです。

このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

次に、パウロが主人たちがこのように行動する理由は、イエス様の昇天に根ざしていることに気づいてほしいのです。パウロは、「彼らの主、またあなたがたの主が天におられる」と言っています。イエス様は私たちの罪のために死なれ、死からよみがえられた後、天の御座に昇られました。イエス様は今、天国にいらっしゃるのです。パウロはこの手紙の中で何度もこのことを言っています。1章での祈りの中で、このように言いました。1:20-21 でイエス様がすべての支配と権威の上にある、天の神の右の座に座っておられるというふうに言いました。2:6では、私たちがキリストとともに天上に座らせてくださいましたと言っています。そして、4章の長い実践的な部分に入る前に、8-10で再びイエスの昇天に言及し、教会のリーダーシップはイエスの昇天のために与えられたイエスからの贈り物であると言っています。

クリスチャン生活は、福音を信じる信仰によって生きるものです。福音とは、イエス・キリストの生涯、死、復活、そして昇天を通して、神があなたを救ってくださるというものです。イエス様の昇天は、イエス様の人生と死と復活と同じくらい重要です。なぜなら、イエス様が天に行かれたとき、イエス様が成し遂げられた救いを人々の心に適用するために、聖霊を遣わされたからです。今、イエスは天の御座からすべてのものを支配しています。そして、教会とは、その支配に服従するキリストの民のことです。私たちは、イエスが本当に来られたこと、私たちの罪のために本当に死なれたこと、死から本当によみがえられたこと、私たちの主、王として本当に御座につかれたことを信じて、信仰に生きています。その信仰のゆえに、私たちは職場でも家庭でも教会でも、人生のあらゆる場面でイエスの王権に服従するのです。

But God, being rich in mercy, because of the great love with which he loved us, even when we were dead in our trespasses, made us alive together with Christ—by grace you have been saved— and raised us up with him and seated us with him in the heavenly places in Christ Jesus, so that in the coming ages he might show the immeasurable riches of his grace in kindness toward us in Christ Jesus. For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, not a result of works, so that no one may boast. For we are his workmanship, created in Christ Jesus for good works, which God prepared beforehand, that we should walk in them.

In 2:18-22 we are told that because of this salvation we are all included in God's family. We are members of the household of God. This also is accomplished entirely by God. It was earned by Jesus' death on the cross and we are still being built into a perfect temple for God by the power of God's Spirit.

For through him we both have access in one Spirit to the Father. So then you are no longer strangers and aliens, but you are fellow citizens with the saints and members of the household of God, built on the foundation of the apostles and prophets, Christ Jesus himself being the cornerstone, in whom the whole structure, being joined together, grows into a holy temple in the Lord. In him you also are being built together into a dwelling place for God by the Spirit.

Next I want you to notice that the reason Paul gives for Masters to behave this way is grounded in Jesus' ascension. He says, "knowing that he who is both their Master and yours is in heaven." Jesus, after he died for our sins and rose from the dead, ascended to his throne in heaven. Jesus is in heaven right now. Paul has said this multiple times in this letter. He said this in his prayer in chapter 1. In 1:20-21 He said that Jesus is seated at the right hand of God in the heavenly places above all rule and authority. He mentioned it again in 2:6 where he says we are seated with Christ in the heavenly places. Then before beginning his long section of practical application in chapter 4 he mentions Jesus' ascension again in 8-10 saying that the leadership of the church is a gift from Jesus that was given because of his ascension.

The Christian life is lived by faith in the gospel. The gospel is that through the life, death, resurrection, and ascension of Jesus Christ, God is saving you. Jesus' ascension is just as important as his life and death and resurrection because when Jesus went to heaven he sent the Holy Spirit to apply the salvation he accomplished to the hearts of his people. Now, from his throne in heaven Jesus is ruling all things. And the church is the people of Christ that are submitted to his rule. We live in faith, trusting that Jesus really did come, that he really did die for our sins, that he really did rise from the dead and that he really did ascend to his throne as our Lord and king. Because of that faith, we submit to the kingship of Jesus in every part of our life, whether at work or home or church.

この世界は、イエス様の世界です。イエス様はいつか帰ってきて、今までに生きてきたすべての人を裁きます。そして、良い王様のように、その裁きは公平であります。イエス様は、完全に公平で公正です。あなたが日本の天皇であろうと、ゴミ収集車の新米運転手であろうと、イエスは気になさらないのです。あなたが自分のために人生を送ったかどうかによって、あなたを裁かれます。クリスチャンである私たちには、すべての罪が赦され、イエス様が私たちの代わりに正義の裁きを受けてくださったという輝かしい慰めがあります。ですから、私たちは喜びをもってイエス様の再臨を待ち望むことができます。しかし、このことが私たちにもっと罪を犯してもいいと思わせるのではなく、私たちの王であるイエスに忠実に生きようとする動機となるはずで

もう一つ、パウロが主人たちにこのように語る理由は、新約聖書全体を通してパウロの奴隷観を見てみると、彼が奴隷制は間違っていて、廃止されるべきだと思っていたことが分かるからです。キリストの世界には、奴隷制度は存在しません。私たちは家族であり、誰も他の人の所有物ではありません。

パウロの奴隷制度に関する教えのすべてを深く説明する時間はありませんが、今日見ているテキスト以外にいくつかの例を挙げます。

先週、レオさんが言ってくれたように、第一コリント7: 21でパウロは奴隷に、機会があれば自由を得るように言っています。彼は誰も奴隷のままであることを望んでいなかった。ピレモンへの手紙全体は、パウロが奴隷を解放するように主人に願っているものです。1テモテ1:10で、パウロは「人を誘拐するもの」を「不法なもの、不従順な者、不敬虔な者、罪深いもの」と同じリストに載せています。ですから、聖書によれば、誰かを奴隷にする行為は罪。また、ガラテヤ3:28でパウロは、キリストには奴隷も自由人もないと言っていました。

この世界は、イエス様の世界です。イエス様はすべてのものの王様です。私たちは、イエス様が王であり、イエス様がやって来て皆を裁き、良い、公正な、正しい王であることを知っているの



This world is Jesus' world. He will return one day to judge everyone who has ever lived. And, like a good king, his judgment will be impartial. He will be totally fair and just. He does not care if you are the emperor of Japan or the newest driver of a trash truck. He will judge you according to whether you lived your life for him. As Christians we have the glorious comfort of knowing that all our sins are forgiven and that Jesus received our just condemnation in our place. So we can look forward to his return with joy. But this should not make us think it is okay to sin more, but it should motivate us to live faithfully to him as our king.

One more reason why Paul speaks this way to the masters is because if you look throughout the New Testament at Paul's view of slavery you can know that he thought it was wrong and should have been abolished. Slavery has no place in Christ's world. We are family and no one is the property of another person.

There is not time to go into depth on all of Paul's teaching on slavery, but here are a few examples besides the text we are looking at today:

As Reo mentioned last week in 1 Corinthians 7:21 Paul tells slaves to get their freedom if they have the opportunity. He does not want anyone to remain in slavery. The whole letter of Philemon is Paul appealing to a master to free his slave. In 1 Timothy 1:10 Paul puts "enslavers" in the same list as "lawless and disobedient, ungodly and sinners." So, according to Scripture, the act of putting anyone else in slavery is a sin. Also in Galatians 3:28 Paul says that in Christ there is no category of slave or free.

This world is Jesus' world. He is the king of all of it. We must live according to his law because we know that he is the king and he will come and judge everyone and he is a good, fair, just king. When he comes he will make everything right. Let's pray.